

ミニレター
あぜみち通信

* * * * *

平成19年11月1日
83号

編集・発行：愛知県農業会議

女性常任会議員と農業委員会女性職員の意見交換会を開催

愛知県農業会議では、10月4日 午後アイリス愛知において「情報提供活動」の一環として、女性常任会議員と農業委員会事務局の女性職員との意見交換会を実施しました。

女性常任会議員の石川政子氏、荻野紀子氏の2人から活動事例や農業委員としての心構え等の紹介を頂いたあと、女性職員との意見交換を行いました。

女性職員からは、女性農業委員の登用を望む声が多く、女性農業委員の選任方法についても情報交換が行われ、「議会サイドの理解、市・町長、会長等に女性農業委員の必要性を訴えて理解求めることも必要である。」などのアドバイスがありました。女性常任会議員からは、議会推薦等の女性登用の話があれば積極的に参加できるように行動することが重要であり、実践しているとの報告もありました。

初めての意見交換会でしたが農地転用の受付、新聞の普及拡大も含め活発な情報交換が行われ、市町村農業委員会職員間の交流をふくめ強い「絆」づくりができました。

地域担い手育成協議会等担当者研修会を開催

愛知県担い手育成総合支援協議会では、地域担い手育成協議会及び市町村担当者等の担い手育成支援に係るスキルアップを図るため、県内2カ所で地域担い手育成協議会等担当者研修会を開催しました。

10月9日には桜華会館で、支援協議会のスペシャリストの安形京子税理士及び神田康史社会保険労務士を講師として、12日には西三河総合庁舎で、安形京子税理士及び神谷正仁中小企業診断士を講師として実施しました。

稲の収穫作業の忙しい時期であったにもかかわらず、認定農業者も多く参加され、市町村やJAの担当者とともに熱心に受講されました。

安形税理士からは「農業にかかる税制の基礎知識」と題して、幾多の課題に対応して意欲を持って経営改善を行うには、複式簿記を基にした経営分析が欠かせないこと、正式な簿記による青色申告では大きな節税効果があることなどを説き、農業簿記及び税務申告について分かり易く説明がありました。

神田社会保険労務士からは、「働く人に係る法律の基礎知識」と題して、資金（資本）と労働力の有効活用による収益の向上を図る上で、雇用は欠かせないこと及びその際の人事管理と労務管理が必要なことを詳しく説明し、事業主として他人

(ヒト)を雇い入れた場合に知っておくべき重要事項について講義がありました。

また、神谷中小企業診断士からは、「農業経営改善のポイント」と題して、「農業者の使命は、4つの『安(=安全・安心・安定・安価)』を念頭に消費者の求める価値を提供し続けること、『作る』×『売る』×『管理する』の3つの能力の「積」を高めて、現状に満足せず『百姓』から『百匠』への変身を遂げるべき。」と熱っぽく語り、頑張る農業者にエールを送られました。

今後、各地域での担い手育成研修へ今回の講師を始め20名のスペシャリストに出向いて頂きますので、積極的にアクションサポート事業を活用してください。

経営構造対策推進協議会先進地調査を実施

経営構造対策推進協議会は10月19日、農産物の加工・販売及び消費者とのふれあい・共生で大きな成果を上げている、三重県伊賀市の「モクモク手づくりファーム」へ研修に出かけ、協議会の構成員、コンダクター並びに経営構造対策実施市町村及び団体の職員など33名の参加者は、説明に当たったモクモク手づくりファーム吉田専務理事の、理念と行動力に感銘を受けて来ました。

近年の農業後継者の不足を、「自分の製品に値が付けられない。夢が無い。夢の無いところに若者は来ない。」と断じて、「時代の風を読んで」250名のスタッフを率いる吉田専務は、「企業的農業経営による地域ブランド、農村交流ネットワーク構築のカリスマ」として平成15年には国土交通省の「観光カリスマ百選」にも選ばれています。

「モクモク手づくりファーム」は、「農業を通じて地域を活性化」「地域の自然と文化を守る」「環境問題に積極的に取組」「おいしさと安全の両立」「『知る』『考える』ことを消費者とともに学び感動を共感」など7つのテーマを掲げて、農場やふれあい施設、三重・滋賀・愛知に6つの直営レストランを運営し、38億円(2006年)の売り上げを上げており、今年からは、団塊の世代にターゲットを当てて、五都二村(五日都会で暮らし、二日田舎で過ごす)生活の場として「農学舎」を開設するなど、積極的な事業展開をしておられます。

モクモク手づくりファームの最新の情報は、<http://www.moku-moku.com/> でご覧になれます。

第46回農林水産祭で内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会長賞を受賞

農林水産業者・団体の最高の栄誉である本年度農林水産祭の天皇杯等の受賞者が10月16日発表されましたが、愛知県からは、園芸部門の内閣総理大臣賞をひまわり農業協同組合バラ部会が、また、畜産部門の日本農林漁業振興会会長賞を有限会社富田養鶏場が、受賞することが決定しました。

表彰式は11月23日の「農林水産祭式典」で行われるとともに、啓発関係行事「実りのフェスティバル」(11月2日・3日、東京ビックサイト)において、「天皇杯等優秀農林水産業者の技術・経営の紹介コーナー」で紹介されます。

ひまわり農業協同組合バラ部会は、切花を水に入れたまま輸送する「バケツ流通」に早くから取り組み、部会専門委員とJA担当者による厳しい選別で市場評価を高めており、女性の能力活用や環境対策への取り組みも先進的であるとして、第36回日本農業賞(主催：NHK、全国農協中央会)の集団組織の部において農林水

産大臣賞を受賞しておられました。

有限会社富田養鶏場は、H A C C P方式を活用して飼育・採卵・パック詰めまでを行う、安全重視の養鶏場でその取り組みが先進的なもので、平成18年度全国優良畜産経営管理技術発表会（採卵鶏経営）において農林水産大臣賞を受賞しておられました。代表者の富田義弘氏は、前豊橋市認定農業者連絡会の会長で地域の農業のリーダーとしても活躍されました。

「全国農業担い手サミット in とちぎ」が開催されました

10月25日・26日の両日、栃木県内全市町村を会場に、全国から2,800名が参加して「第10回全国農業担い手サミット in とちぎ」が開催され、愛知県からは26人が出席しました。

全体会では、栃木県の大出陽子さんの「貴女も共同申請で担い手に!」、山梨県的小林輝男さんの「農業を未来の花形産業に!」、広島県の小川和夫氏の「構成員と従業員の生活が成り立つ農業経営の確立を目指して」と題した事例発表の後、東京農業大学の八木宏典教授を助言者にパネルディスカッションが行われました。いずれの方もしっかりと後継者や次代を担う若者を確保し、どのように意欲と能力を伸ばすかに腐心していることを語っておられました。

全体会は、消費者から信頼される農業経営の実践、持続可能な循環型社会の実現と環境の保全、全国の担い手の連携による次世代の担い手育成と国際競争力の高い農業の確立、に取り組むことを確認するサミット宣言を採択して、県内各地に分かれての地域交流会に出かけました。

地域交流会は、8会場においての地産地消をテーマにした料理をはさんでの情報交流会と、21コースに分かれての現地研修会が行われました。

平成20年度は、三重県において開催されることが決定しています。

農業者年金担当者研修会を開催

愛知県農業会議では、愛知県農業協同組合中央会との共催で、農業者年金担当者研修会を10月29日・30日の両日にわたって開催しました。

研修会は、農業委員会及びJAの担当者並びに県関係職員など71名が参加し、制度の改正の経過や概要、JAみどり年金を始めとする類似制度との比較などについて、農業会議や農業者年金基金の担当者から説明を受けるとともに、経営移譲年金の支給停止に係る留意点や届出の処理などについても研修して頂きました。

今年度は、170人の新規加入を目指して、各農業委員会及びJAで推進をして頂いており、上半期で昨年度全体を上回る30人の加入を頂きましたが、様々な会合の多くなる年末年始にかけての一層の推進をお願いします。

常任議員会議（10月）の審議状況

知事諮問案件等を審議するための常任議員会議が10月16日開催され、農地法第4条に基づく転用事案50件23,023平方メートル、及び第5条に基づく転用事案407件348,980平方メートルについて審議し、原案通りで了とすることが議決されました。

審議終了後は、全国農業新聞の購読者数が10月1日現在で3,500名を超えたことなど情勢の報告を行いました。

女性農業委員の研修会を開催します

愛知県農業会議では、女性農業委員の研修会を11月15日に開催します。

現在、57名の農業委員が、女性の視点での農業・農村の振興のために活躍しておられますが、研修会では、食育への働きかけなどを促進し、地域の農業及びむらづくりの活性化に資するため、農業フリージャーナリストの青山浩子さんに「見つめよう『食』と『農』とのつながり」と題して基調講演頂くとともに、県農林水産部農業経営課から男女共同参画への取組状況等について情勢報告を頂いた後、グループに分かれてのバズセッションを予定しております。

一人でも多くの女性農業委員、事務局職員・関係者の参加を期待しています。

愛花協だより（知事お祝いメッセージ、会長色紙贈呈）

清須市 小川 信太郎 さん ・ 道江 さん （10月6日挙式）
小牧市 安藤 義人 さん ・ 登信子 さん （10月13日挙式）
春日井市 山中 哲也 さん ・ 紀世美 さん （10月21日挙式）
豊橋市 白井 誠 さん ・ 晴子 さん （10月21日挙式）
知多市 西尾 忠義 さん ・ 由美 さん （10月28日挙式）
豊橋市 鷺坂 憲司 さん ・ 忍 さん （10月28日挙式）
ご結婚おめでとうございます。一層のご活躍とご多幸を祈ります。

今後の主な行事予定

- 11月6日(火)～7日(水) 中日本ブロック農業委員会職員現地研究会（幡豆町）
- 11月8日(木) 愛知県市部農業委員会会長会秋季定例総会（豊明市）
- 11月8日(木) 都道府県農業会議事務局長会議（東京都）
- 11月14日(水) 常任会議員会議（白壁庁舎）
- 11月14日(水) 農業委員会活動評価検討委員会（白壁庁舎）
- 11月15日(木) 女性農業委員研修会（中村区）
- 11月16日(金) 農業経営士・青年農業士・農村生活アドバイザー認定式
愛知県担い手育成総合支援協議会研修会（農業大学校）
- 11月26日(月) あいちアグリアワード表彰式（中村区）
- 11月27日(火) 農業者年金加入促進セミナー（東京都）
- 11月28日(水) 全国農業委員会会長代表者集会（東京都）

あとがき

農林水産省は、農地政策に関する有識者会議での検討を踏まえ、農地政策見直しの基本的方向を取りまとめ、1日の経済財政諮問会議で明らかにしました。

「農地は有効に利用との理念を確立する」観点から、情報の共有化、耕作放棄地対策の推進、優良農地の確保、面的集積の推進、権利移動規制の見直し、賃貸借期間の長期化、などについてさらに検討を進めるとしています。

担い手の減少と農産物価格の低迷が続く状況の中で、優良農地の担い手への利用集積は古くて新しい課題であり、新たな面的集積の仕組みが検討されるようですが、農業委員会の機能と蓄積データの有効活用についての真価が問われる状況になってきました。関係機関の連携の下に着実に業務を進めねばと思う日々です。